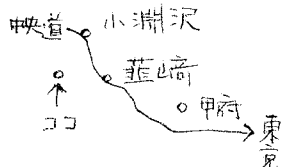


報新 龍屋 新聞

「旧白州町横手・ダンス白州実行委員会
の「駐車場」オモロカッタ電」
ト暑く八月十日の昼下り、社主製作の
移動マシン(次頁)は東京、仙川から
面に向った。若者ふたりが同乗する。今回
の竹細エワークミヨツと企画したモモ子
嬢とホームページ「トカラ塾」の編集長
であるダイサク兄である。夕オ、白州に着
いたが、現地では記録係も引受けていた
カメラマンの荒川比が一廿二を撮りて
待っていた。

子らの頬
緑射す陰で
釋握る

緑陰竹遊び
於山梨県旧白州町



翌十二日、十余人の小中学生と共に
竹皿、竹コップ(手付き)を作る。都会
の子ばかりであったが、刃物を握る女
に逞しさがあらわれていた。この森で
一、二週回すしてから街に戻るそうだ。
塾通いの自営者が待っているのだろうか。
塾の心配のはいおとなたちは、ロソクたに
頬を焼いて連夜の宴会であった。野ク
も集れたかに、デニ部もホコホコやられたが
子らとの酔人たちの気持も良し三泊三日
であった。

蚊
△
△
△

告(の)
三段
の
ホムページが開かれた。明治十年生まれの祖母に怪
しいなローマ字しか習ったことのない社主をカドしてくれ
たのはダイサクセンセイであった。センセイにけた時には
皆おこける。写真入り新聞に変身して五ヶ月後、今
度はエニページ若田光一さんと共に、紙のふんキミに版に。

おとこの塾の
お知らせ

お四回 「南風語り」
九月二十六日(出) 午後三時
会場 ガヤラリー・ガラ
テールマ 「アナカリとスイツチ」
03 3439 3364

竹細エワークミヨツ 於：山梨県北杜市白州町

PHOTO 荒川 健一



「オオは「ビニタ」が良かて、欺^{たま}さるなよ」
 島に遊びに来て、た社主の友人が、世話人
 から「この言に、含められた。それを聞かされた
 社主は、島の中核へ歩近づいた輝やかだと、
 疎外^{あんた}がされたけ進んだと、う暗鬱^{あんうつ}な想いで
 に、狭めうちも食^くらされた。

「ビニタ」とは「コトバ」がある。顔と平手で
 打つことと言ふ。おおもとの意味は「影質^{かげしつ}」
 であり、これは頭の左右側面の髪のこと。
 島で使われる場合は意味がずれてくる。
 「ビニタ 摘みこくせんか?」とは「髪^{かみ}髪^{かみ}して
 くれな、か?」であり、「この魚は「ビニタ」が
 「目か?」であれば、「この魚の肉味は 頭部
 が「目」となる。すれも、頭部とさう
 意味味である。「ビニタが良か象^し」とされ
 ば、「頭脳明晰^{ずんぶんめいし}な人のことである。影質^{かげしつ}
 の美し人^{うつくしひと}」ではな。

「ビニタが良かて、欺^{たま}さるなよ!」

つまり肉体の、頭部の意味と精神作用をつか
 さざる 頭脳^{ずんぶん}の意味の両方が含まれている。
 これと同じことが「噛む」にも言える。
 「こあ、噛まんか?」と云うて客をもてなす。
 これは「遠慮^{えんよ}しないので、たくさん食^くべし」
 の意味であり、「咀嚼^{そくかく}する」と言めてい
 るのではない。島では「食^くべる」という表現
 がないのである。

「食^くべる」には食物の摂取という肉体的行為か
 ら派生して精神行為までも表現している。
 「くを食^くう」は肉習慣^{にくじふん}を言うのではな
 い。くを噛む^{かむ}となれば、これは事件である。
 「ビニタ(頭)に続く、頭脳」の「コトバ」がほま
 れな、たのと同様に、「噛む」に続く「食^く
 べる」の「コトバ」が島ではほまれなかつた。

「ビニタ」と「噛む」が

島語解説

< 職住直結 - 移動マンション >

台所・書斎・寝室・居向付を三疊^{さんじょう}向
 車は1.5トンのトラック。

(写真) 荒川健一



「移動マンション」で昼食を摂る社主

PHOTO

荒川 健一

4回 「ナオの南風語り」
1 アンナリとスイッチ

暑くてやけど、ナウヤかでもあり、淋しくもある。九月の最終、土よう日に開かれる。題して「造語の達人たち」である。アンナリ・スイッチ、ホゴヤ、エニナウ、デニキなどなど。これは近年の新造語である。アンナリなどは時代をそのままあぶり出している。米軍統治下に入ってからのもので、アンナリと銚の合体したものか、アンナリ、アエナリである。古い造語は島の方言つまり、島語化している。ナマ、シラ、ダブソなどがある。北隣りの中之島に白木という旧家が、これが島屋のシラキの神々を祭る。家柄である。その古蹟からは縄文朝の器も出てくる。むろん墓もある。海漁に乗って半島から来た人がいたのかどうか、シラキはシラキ(新種)でははないかと書かれてる。

(独 白)

がご屋のブイゴト

以前、社まは人に問われたことがある。

「あなたは、何者ですか?」と、社まが何を考え、この先にどんな

思考を巡らすつもりなのか、という問いとは受け取れなかった。

「初めてまみえますが、いったいどこに帰属しているのか?」の問いに近かった。

カゴ屋主人であることは分がせいで

帰属を使わせていただきました。

治療費を払わなければならなかった。

そこで考えたのが、保険の使える会

社に入ると虫歯を治すことだ。

社まは組織を味わる間もなま身を引き

たのだから、やはり、帰属したという想いは芽はえなかった。

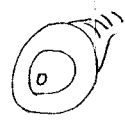
島で暮らしているとまは工事人夫として収入を得ていた。島を離れてからは

はずである。社まは六十以上も生きて、出身学校を話題にする環境に身を置いたともはがたし、組織の一員になった経験もない。

いや、よく考えれば一度だけある。たい大手企業に席を置いたことがある。三菱自動車工業の下丸子工場の職工としてである。それは永年悩

まされ続けてきた虫歯の治療をするためだ。社まの若くは国民健保も並及していなかった。

どこかの組織に帰属していない者は高額は



竹細工の職人としてである。カゴの注文ととりながら、

山田地を渡り歩いたこともある。組織とは縁遠い日常に、周囲の眼は必ずしも好意的とはいえない。まちがえは、石ついでがねでく。

近代の知識人は「社会的に自由に移動することは特徴づけられる」とはカール・マンハイムの

コルンダとうである。「あなたは何者?」の問いは

いかに帰属してないと理解したく、悲鳴に近い

お知らせ 10月26日

◎「カ」の南國語リ

- オ四回 「マンカリとスイッチ」
- 造語の達人たち
- オ五回 「オヤコヒヤドク宿」
- 客人接待制度

10月24日(土) 9月26日(土)

◎複製版「ニ」の到来

オ一弾として『山羊と芋酎』(昭53未発表)
がリDS出版からCD版本として出る。
オ二弾は『吐火羅羅國』(昭54八重岳書誌)
詳しい内容は「ニ」のホームページで。

◎『季刊東北草』連載始まる

オ三回(七月)「南國語りごと」ありつた
『平島放送速記録』の行向を讀む
作業を向う二年半にわたって行う。

◎「トカマ」文芸「ガ」の南帳

ヤマトと琉球との谷間に咲く文芸の
園が静かに扉を開く。H.E.が讀める。

< 書 >

『仙助さんのこと』

中森美才著 伝播オマ

< 読 >

熊野の山中で自死した山灰

燧まの仙助さんのことを

つづいた一文である。著者

が幼なかつたころに、仙助さんに連れ

られて奥山の山灰焼き小屋に行つた

ことがある。仙助さんは山彦の達人

で、タケノコ、山菜、魚、うなぎを獲ら

は仕事仲間にもまわっていた。著者に

うなぎ釣りを教えてくれたのも仙助さん

だった。渾身よくうなぎが獲れたのは、

小屋の前で、どじょうすくいや、うなぎ

つかみの仕種の踊りをしてはじめて笑ひ

せうのだった。

『二十世紀羊の熊野の山の仲間』に、仙助さん

という人がいて、一日を乗りかへんを笑ひ

数椀の花が咲きまはる山々に生きて、係果

出版案内 NJS出版 報い本 E-mail mis imagati@gmail.com TEL 050-3674-8449

「平島放送速記録(一)」	CD版本	NJS出版	1995円	送料 100円
「東シナ海の貝曾与」	〃	〃	1995円	100
「日琉境界の島-臥蛇島の手当金制度」	〃	〃	1995円	100
「山羊と芋酎」複製版	〃	〃		
「稻垣尚友作品集I-地獄が落ちた島」		風土記	3000円	340円
「埋(いず)み火」		えんげん社	1500	290
「17年目のトカラ」		集(あかつ)社	1800	290
「密林の中の書音」		〃	2000	290

お申込みはNJS出版へ 振替口座もあつて

- ◎ 00140-8-789403 加々著名
- ◎ エヌジエイエス出版